

施策番号 3-2-2	施策名 快適な住環境の整備	基本目標	快適で安全安心な暮らしを支えるまちづくり		
		政策名	都市空間の整備と有効な土地利用の推進		
主管課 建設都市整備課	施策関係課 住民生活課	課長名	木村 淳彦	内線	440

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
快適で安全安心な公園などの住環境の整備と適正な公共賃貸住宅の供給をすすめます。		町内の住環境	快適で安全安心な住環境を町民に提供する					町人口の増加と、居住者の快適な暮らし	
成果指標	説明	単位	23年度(策定時)	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)		
① 芽室町の公園に満足している町民の割合	住民意識調査	%	74.0	75.1	73.2	75.0	75.0		
② 居住環境に満足している町民の割合	住民意識調査	%	78.4	75.7	73.0	80.0	80.0		
③									
成果指標設定の考え方	①目標値は、75%以上を確保するよう努めることとし、下限を設定した。 ②H28の満足度が73.0%であったことから、段階的に80%を目指す。								

2. 施策の事業費

	27年度決算	28年度決算
施策事業費(千円)	221,224	212,295
人工数(業務量)	6.2169	5.6651

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成28年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①は前年度より低下 →昨年夏の台風災害による花菖蒲園の観賞中止 成果指標②は前年度より低下 →建設年度の古い公営住宅が多い
②平成30年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①「公園施設長寿命化計画」に基づき施設の修繕・更新・改築を取り進める。 ②「芽室町公営住宅等長寿命化計画」に基づき、長寿命化型改善工事を計画的に進める。 民間の空き家も居住環境の悪化を招く一因であることから、適切に維持保全がされていない空き家の所有者に対して、指導を行う。
(2) 施策の成果評価に対する平成28年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	公園施設等維持管理事業 公営住宅維持管理事業 限定特定行政庁事務	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	公営住宅建設事業
③事務事業全体の振り返り(総括)	●「公園施設等長寿命化計画」の推進 →公園の既存施設は、劣化状況等に合わせ計画的に修繕及び更新を進めている。 ●花菖蒲園の復旧 →昨年夏の台風で大幅に菖蒲の種類が消滅した。今後は3カ年計画で株の購入を行い復旧を目指す。 ●公営住宅の適正な管理 →低所得者への公営住宅の賃貸を維持継続し、必要な修繕を適正に実施することにより快適な住環境を提供している。 ●老朽空き家対策 →町内会に対して空き家に関するアンケートを実施し、把握した危険な空き家の所有者に対して指導を行った。		

**(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果**

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

**4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等**

施策を取り巻く状況と今後の予測	<< 施策を取り巻く状況 >> ・公営住宅入居希望者の居住環境に対する要望が従前より高くなっている << 今後の予測 >> ・公園施設が経年劣化していることから、安全安心な憩いの場やコミュニティの場を提供するため、計画的な公園施設の点検による維持管理と修繕及び更新 ・公営住宅等長寿命化計画に基づき、ストックの効率的・効果的維持管理の推進 ・老朽空き家に対する相談件数の増加
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	・公営住宅の解体(用途廃止)予定団地の入居者が不安を感じないように取り進める必要がある。 ・周辺の居住環境に悪影響を及ぼす空き家の所有者に対して改善を行うよう指導を行う必要がある。

**5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)**

<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題① 公園施設等の老朽化対策 公園の既存施設は、経年劣化が進んでいることから、「公園施設等長寿命化計画」に基づいた計画的な維持管理と施設の更新を進める。</li> <li>●課題② 災害復旧 花菖蒲園の復旧にむけて計画的に進める。</li> <li>●課題③ 老朽化した公営住宅の整備 「公営住宅等長寿命化計画」に基づき整備を進め、適正な管理戸数及びトータルコストの削減を図る。</li> <li>●課題④ 老朽空き家対策 空き家の戸数は増加することが予想されるため、定期的に調査を実施する。</li> </ul>
--

**6. 総合計画推進委員会(庁内評価)**

評価	後期実施計画策定時から住環境整備をすすめており前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	●昨年の台風災害と、これまで推進してきた環境整備とは切り離して考えるべきである。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				

**7. 総合計画審議会(外部評価)**

評価	町の全体像としての住環境整備を進めており、前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	●公営住宅の適正な整備をさらに推進してほしい。 ●空き家対策として、リノベーションなど違った側面からの対策を考えるべきではないか。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				